

□ ウラ空間の構成

空間は「屋根のウラ」「連絡通路のウラ」「線路のウラ」の3つの空間で構成されている。これらの空間は階段室で繋がり、それぞれ異なったウラ空間を体感することができる。

■屋根の「ウラ」

- ・屋根の裏の空間から、日常とは違う視点で駅や人々を観察する。
- ・「ウラ」をイメージしたエキスパンドメタルに包まれている。
- ・街並みと人々の暮らしを観察する。

□京王線ホーム

■連絡通路の「ウラ」

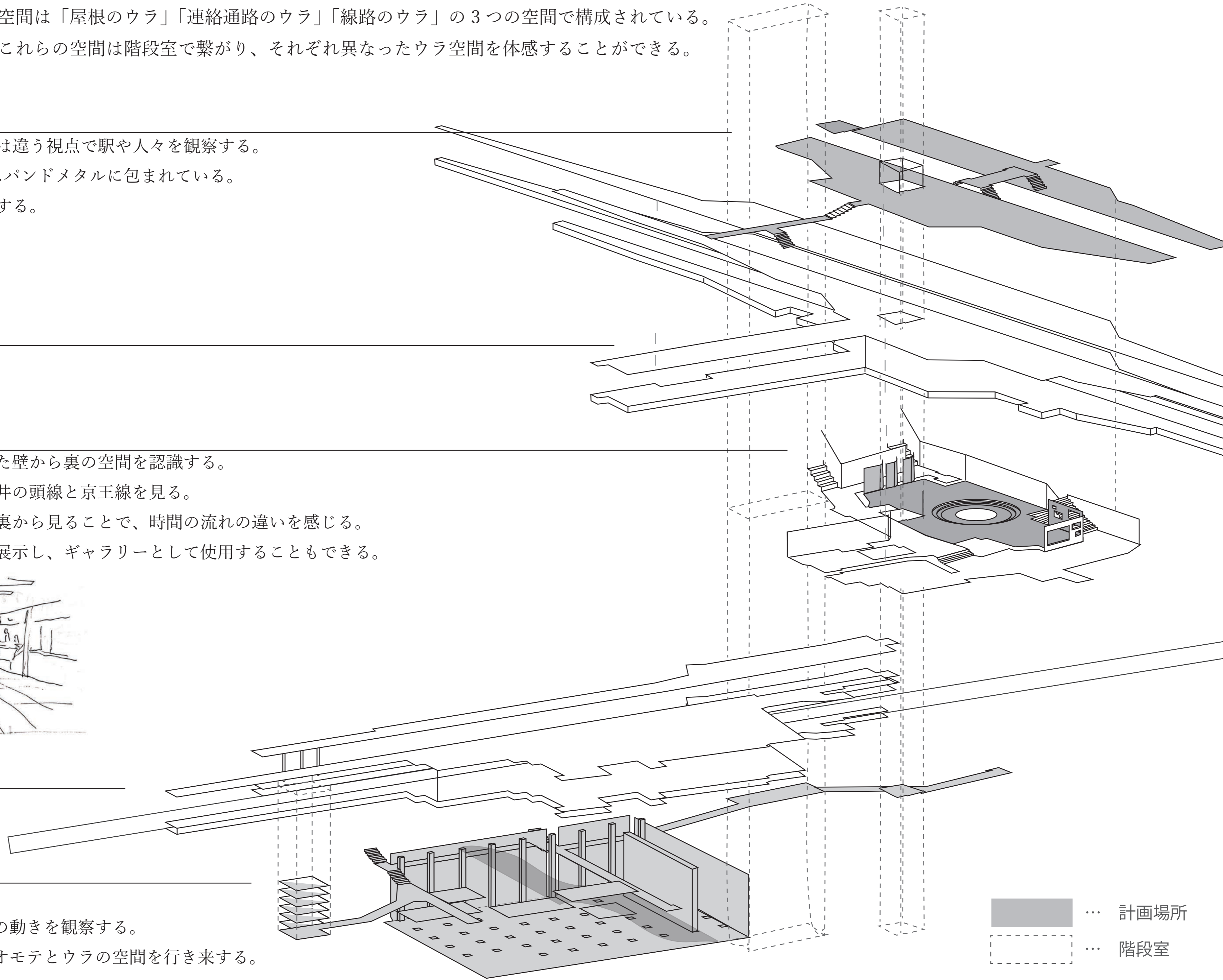
- ・くりぬかれた壁や、めくられた壁から裏の空間を認識する。
- ・中央の上下に空いた穴から、井の頭線と京王線を見る。
- ・駅の「オモテ」にある日常を裏から見ることで、時間の流れの違いを感じる。
- ・エキスパンドメタルに作品を展示し、ギャラリーとして使用することもできる。



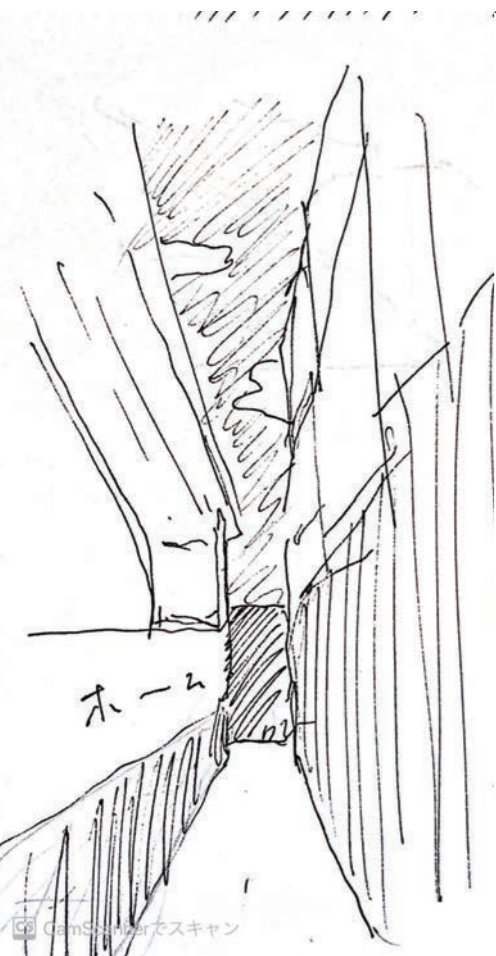
□井の頭線ホーム

■線路の「ウラ」

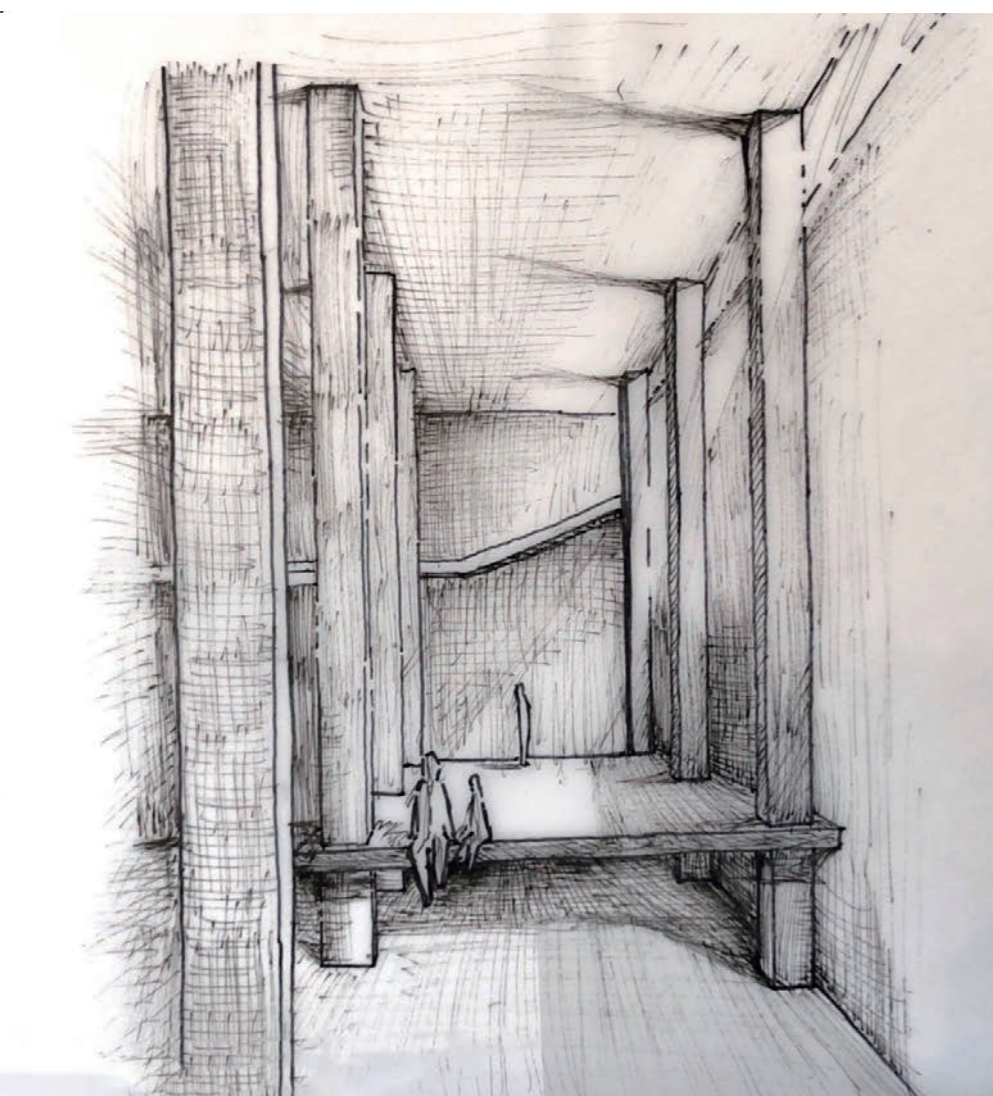
- ・井の頭線の音を下から聞く
- ・宙に浮かぶフロアにいる他人の動きを観察する。
- ・ナナメの壁により区切られたオモテとウラの空間を行き来する。



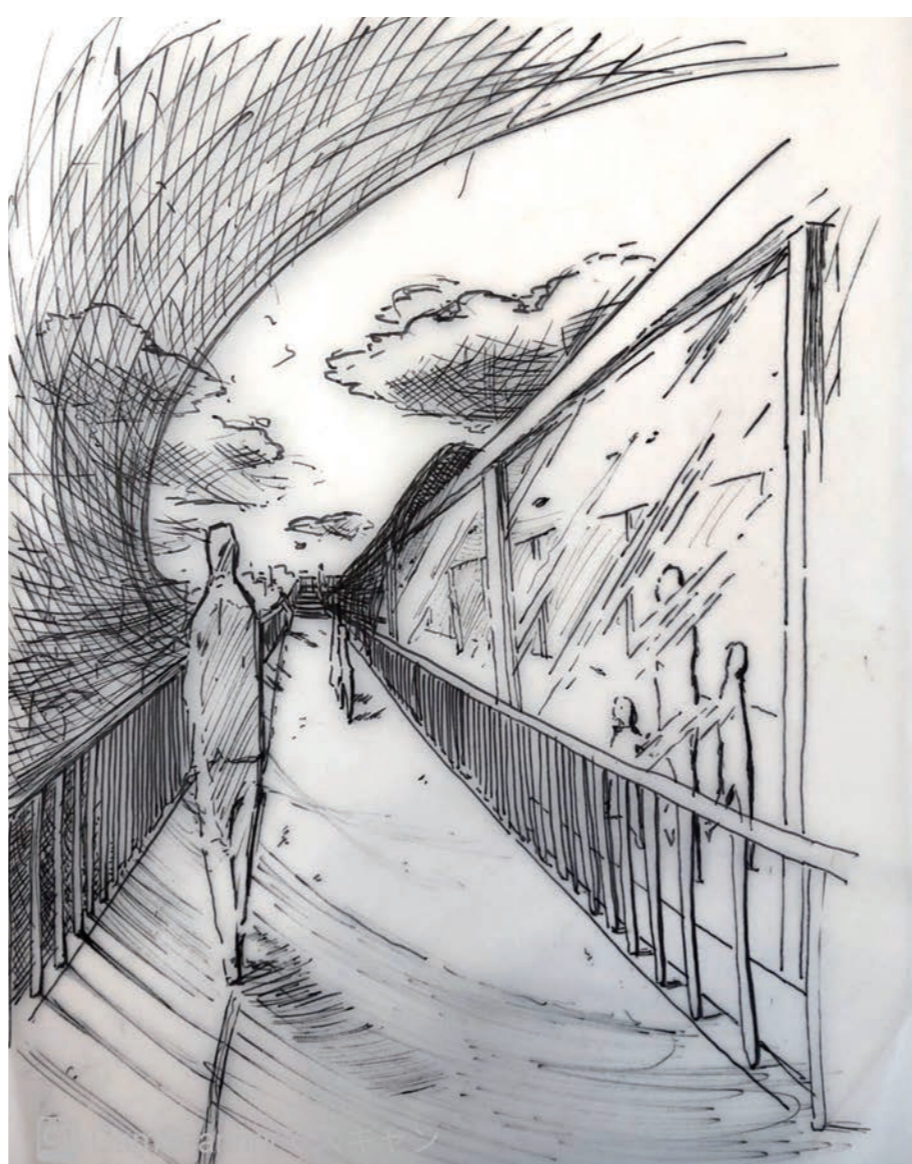
□ ウラの魅力



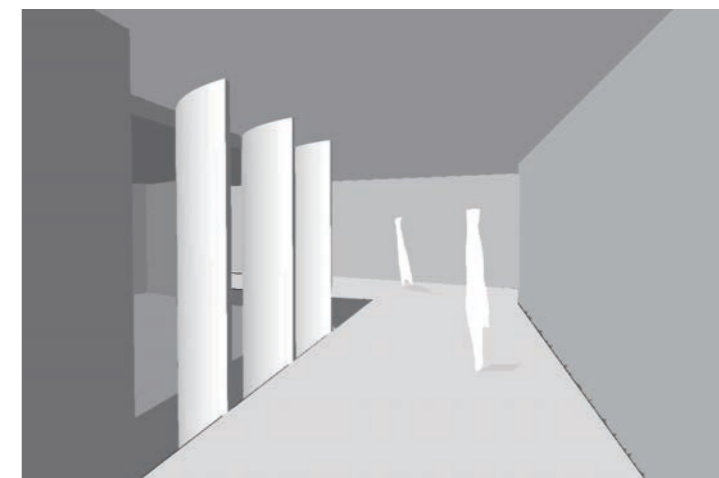
ホームと商店街の間の裏道



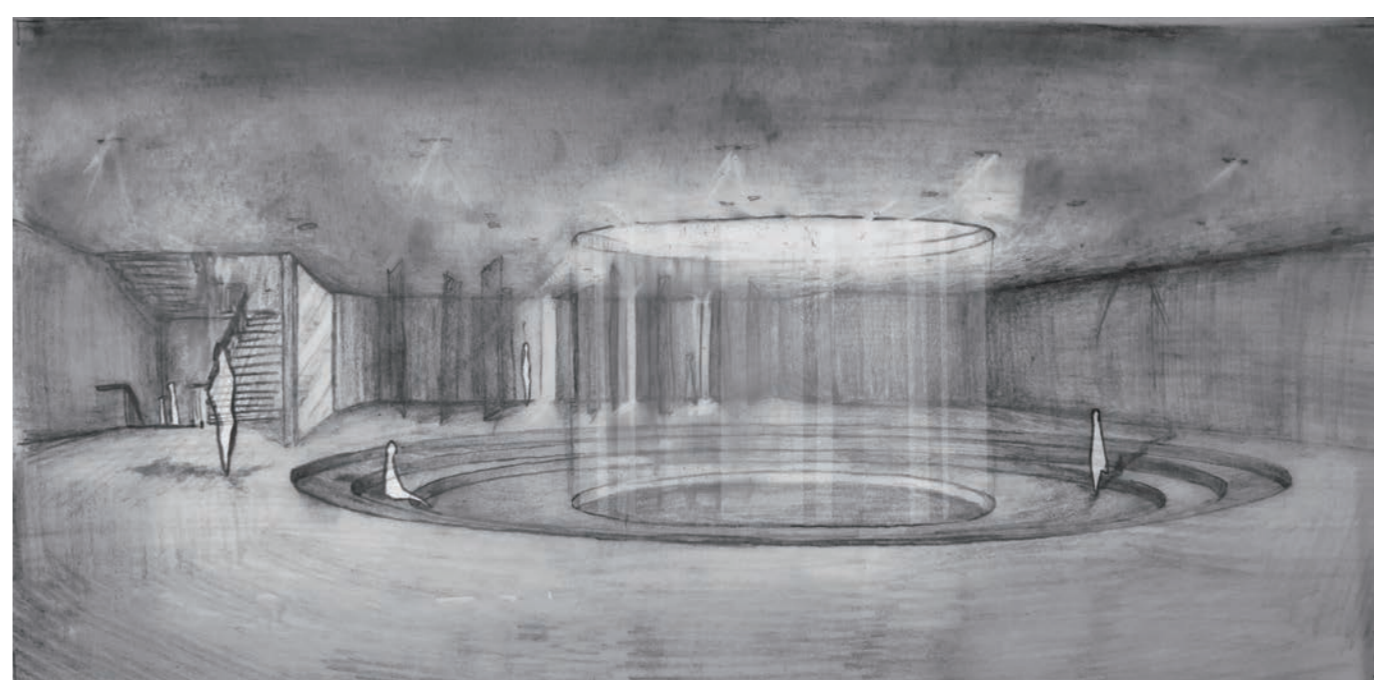
線路の「ウラ」に裏道から光が差し込む



←京王線と井の頭線を直接つなぐ連絡通路と平行に通る通路。交わることはないが、互いの姿を見ることができる。

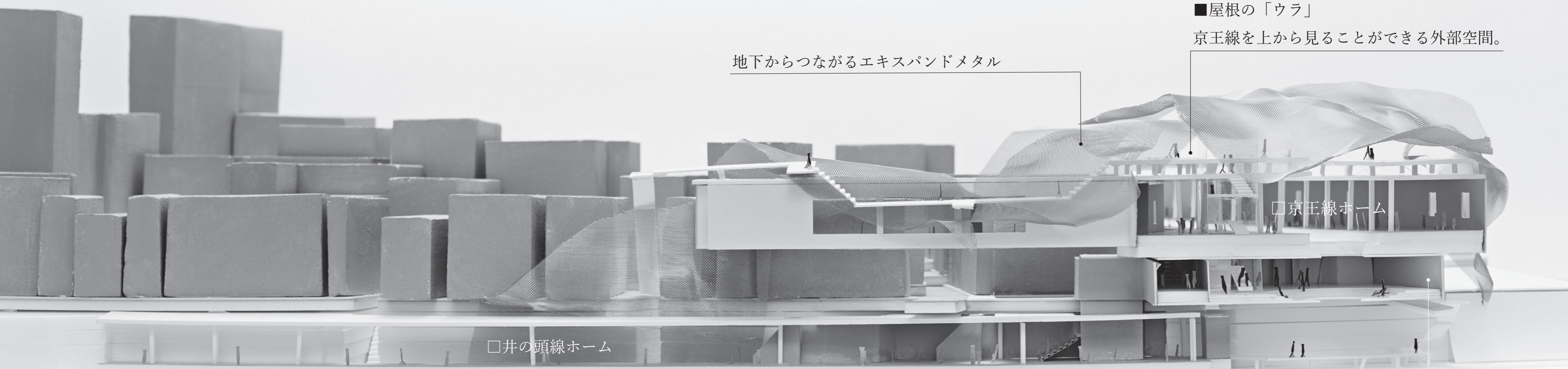


←東側の壁はめくられたように斜めになっているため、一方向からのみウラが見える。



←すべての階とつながる吹き抜けの周りには階段状になっている。また、エキスパンドメタルを利用したギャラリーがある。

□ つながるウラ空間



■屋根の「ウラ」

京王線を上から見ることもできる外部空間。

地下からつながるエキスパンドメタル

□京王線ホーム

□井の頭線ホーム

■連絡通路の「ウラ」

改札階の連絡通路に囲まれている。切り抜かれた窓や隙間から「オモテ」を見る

■線路の「ウラ」

エキスパンドメタルにより斜めに区切られた空間を行き来することで、1つの空間の中で「ウラ」と「オモテ」を体感する。

